

イーストスプリング・
インド公益インフラ
債券ファンド
(毎月決算型) / (年2回決算型)

追加型投信 / 海外 / 債券

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主としてインドの公益およびインフラ関連の債券に実質的に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

<https://www.eastspring.co.jp/>

【お問い合わせ先】

電話番号：03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧、ダウンロードすることができます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

ホームページにアクセス ⇒ 「ファンド情報」を選択 ⇒ ファンド名を選択 ⇒ 「目論見書・月報・運用報告書等」の「運用報告書(全体版)」を選択

作成対象期間 2019年7月11日～2020年1月10日

(毎月決算型)

第53期 2019年8月13日決算 第56期 2019年11月11日決算

第54期 2019年9月10日決算 第57期 2019年12月10日決算

第55期 2019年10月10日決算 第58期 2020年1月10日決算

(年2回決算型)

第10期 2020年1月10日決算

(毎月決算型)

日経新聞掲載名: インド公益債

第58期末	基準価額	8,582円
	純資産総額	54,897百万円
第53期～ 第58期	騰落率	0.2%
	分配金合計	270円

(年2回決算型)

日経新聞掲載名: インド公益2

第10期末	基準価額	11,072円
	純資産総額	19,766百万円
第10期	騰落率	0.2%
	分配金合計	0円

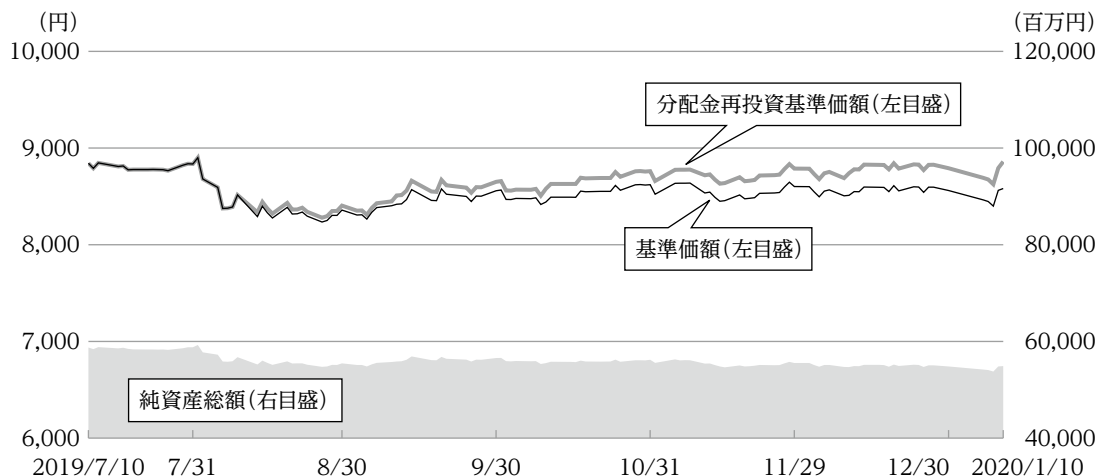
(注)騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

運用経過

(毎月決算型)

基準価額等の推移について

(2019年7月11日～2020年1月10日)



第53期首	8,843円
第58期末	8,582円 (既払分配金270円)
騰落率	0.2% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額(分配金再投資ベース)は上昇しました。

上昇要因

- ・債券価格が上昇(利回りは低下)したこと。
- ・債券からのクーポン収入(利金)。

1 万口当たりの費用明細

(2019年7月11日～2020年1月10日)

項目	第53期～第58期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	73円	0.852%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 作成期間の平均基準価額は、8,589円です。
(投信会社)	(36)	(0.415)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(36)	(0.415)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	2	0.018	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.015)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管 および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	(0)	(0.001)	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
(その他)	(0)	(0.001)	インドの税務代理人に対する手数料
合計	75	0.870	

(注1) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

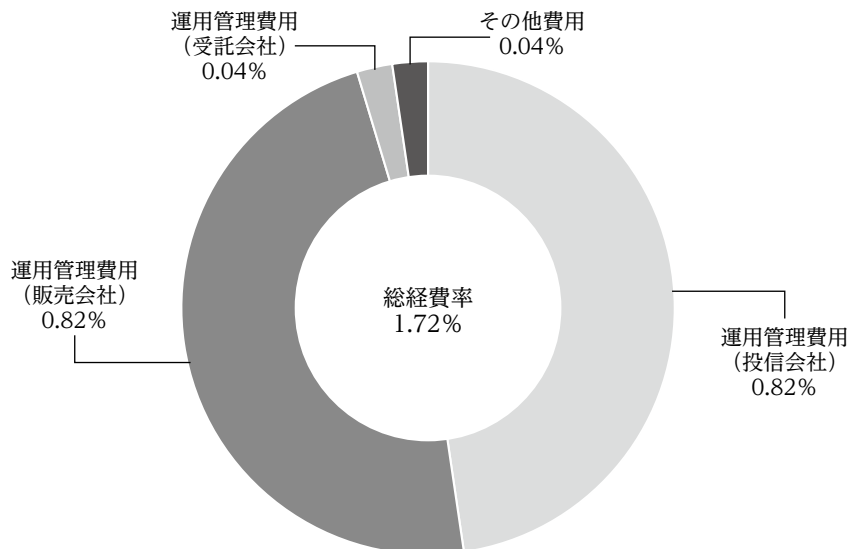
(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(参考情報)

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.72%です。



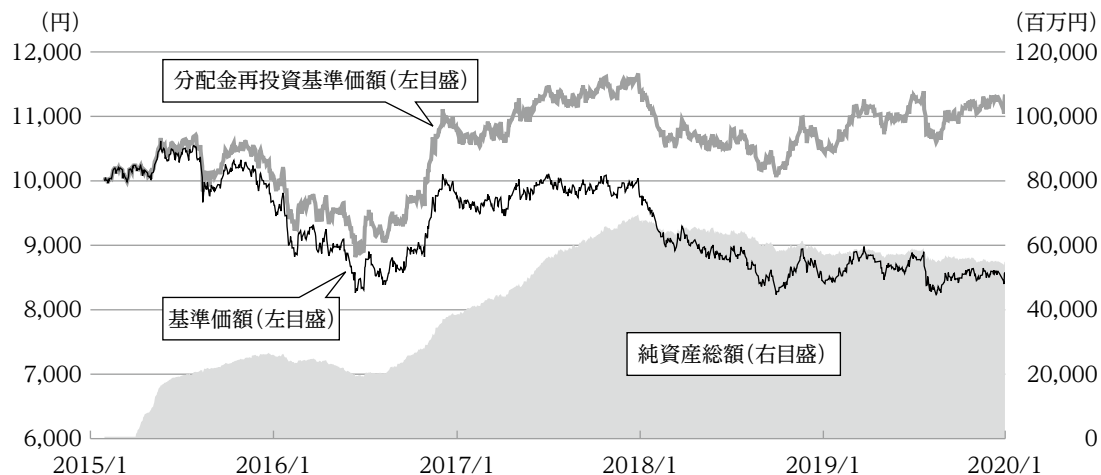
(注) 各費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について (2015年1月13日～2020年1月10日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、設定日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

決算日		2015/2/10 設定日	2016/1/12	2017/1/10	2018/1/10	2019/1/10	2020/1/10
基準価額	(円)	10,000	9,691	9,800	9,881	8,455	8,582
期間分配金合計（税引前）	(円)	—	405	540	540	540	540
分配金再投資基準価額の騰落率(%)		—	0.9	7.4	6.5	-9.0	8.1
純資産総額	(百万円)	586	26,041	38,327	68,457	57,251	54,897

(注) 設定日の基準価額は設定時の価額を、設定日の純資産総額は設定当初の元本額を記載しております。

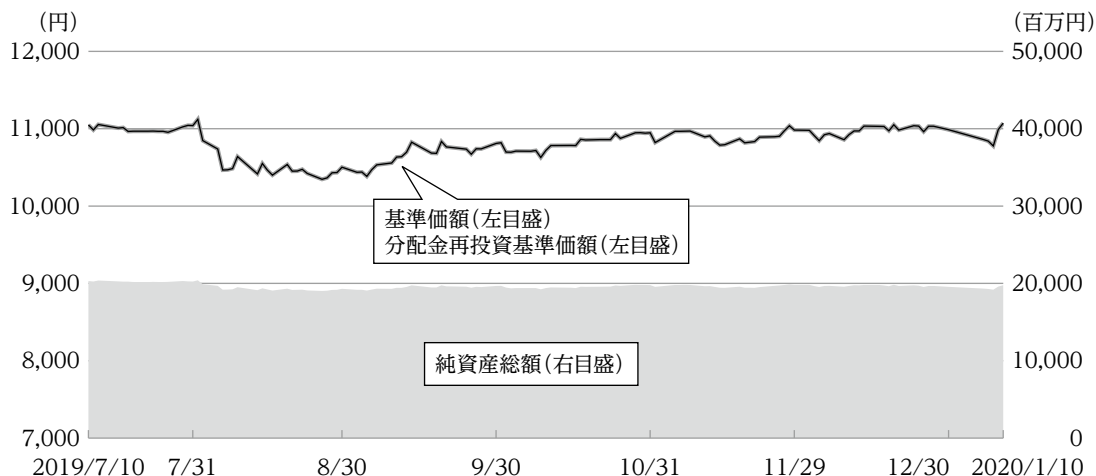
*当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

運用経過

(年2回決算型)

基準価額等の推移について

(2019年7月11日～2020年1月10日)



第10期首	11,050円
第10期末	11,072円(既払分配金0円)
騰落率	0.2%(分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は上昇しました。

上昇要因

- ・債券価格が上昇(利回りは低下)したこと。
- ・債券からのクーポン収入(利金)。

1 万口当たりの費用明細

(2019年7月11日～2020年1月10日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	93円	0.852%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は、10,878円です。
(投信会社)	(45)	(0.415)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(45)	(0.415)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	2	0.021	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(2)	(0.015)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管 および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	(0)	(0.003)	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
(その他)	(0)	(0.001)	インドの税務代理人に対する手数料
合計	95	0.873	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

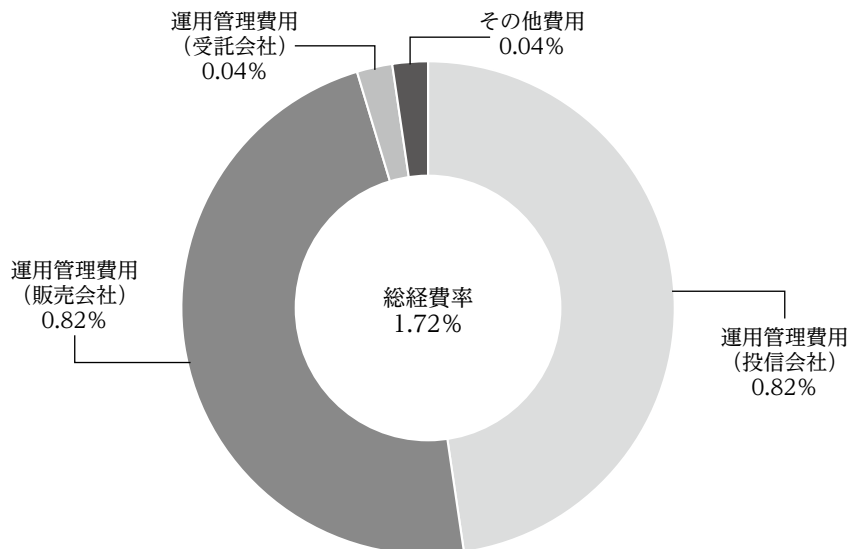
(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(参考情報)

■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.72%です。



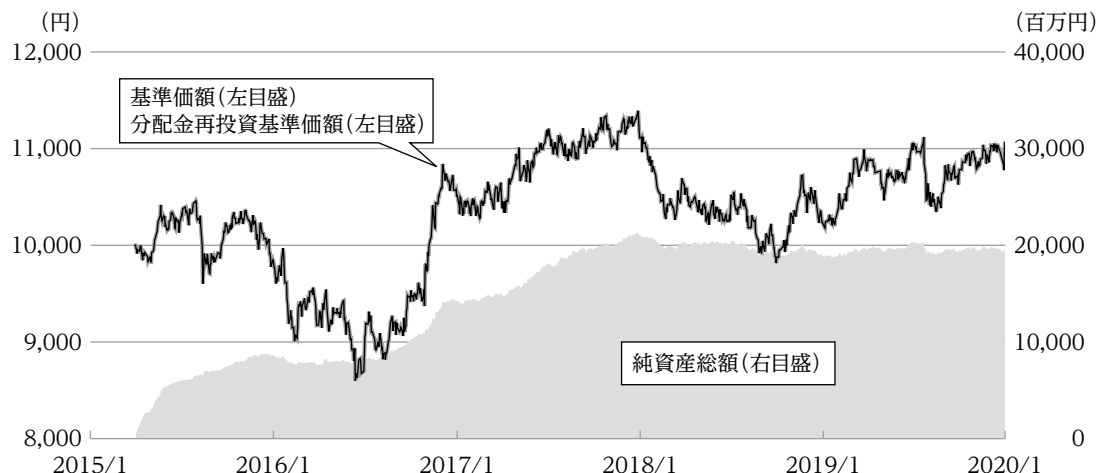
(注) 各費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について (2015年1月13日～2020年1月10日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、設定日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

決算日		2015/4/10 設定日	2016/1/12	2017/1/10	2018/1/10	2019/1/10	2020/1/10
基準価額	(円)	10,000	9,847	10,566	11,259	10,240	11,072
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率(%)		—	-1.5	7.3	6.6	-9.1	8.1
純資産総額	(百万円)	1	8,609	14,326	21,115	18,922	19,766

(注) 設定日の基準価額は設定時の価額を、設定日の純資産総額は設定当初の元本額を記載しております。

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境について

インド債券市場

2019年8月、景気支援に向けた財政出動観測が高まってインド債券の価格は下落（利回りは上昇）しました。9月20日に大型の法人税減税が発表されると、税収の減少懸念から債券は一段安となりました。その後、2019／20年度後半の国債発行予定額が据え置かれたことから、債券価格は反発（利回りは低下）しました。12月初旬に市場の利下げ予想に反してインド準備銀行（中央銀行、RBI）が政策金利を据え置いたことにより債券市場は再び調整しましたが、12月下旬にRBIがオペレーションツイスト（長期国債の買いオペと短期国債の売りオペを同時に行う公開市場操作）を実施したことから債券市場は反発し、通期では小動きとなりました。

ポートフォリオについて

イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型) / (年2回決算型)

イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてインドの公益およびインフラ関連の債券に投資しました。

イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド

主としてインドの公益およびインフラ関連の債券に投資を行い、安定した収益の確保と

為替市場

2019年8月初旬、中国人民元安に端を発したアジア通貨安の中でインドルピーは対米ドルで急落しました。9月は反発しましたが、11月に米大手格付会社がインドの格付見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げたことから再び下落しました。12月初旬に市場予想に反してインドの政策金利が据え置かれるとルピーは上昇し、2020年1月には米国とイランの緊張が高まると一時的に下落したものの、緊張緩和とともに反発しました。通期ではルピー安米ドル高となりました。他方、円も対米ドルで下落しましたが、ルピーの下落幅が上回ったため、ルピー安円高となりました。

信託財産の中長期的な成長を目指した運用を行いました。マクロ経済分析および金利分析に加え、個別発行体に対するクレジット調査に基づく銘柄選択により、運用を行いました。当（作成）期は、銀行セクターや石油・ガスセクターの銘柄の保有が主なプラス要因となりました。投資行動としては、2019年11月から12月にかけて利回りが低下した短期の債券を売却して長期の債券を購入し、戦術的にデュレーションの長期化を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり、税引前）
（毎月決算型）

項目	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
	2019年7月11日 ～2019年8月13日	2019年8月14日 ～2019年9月10日	2019年9月11日 ～2019年10月10日	2019年10月11日 ～2019年11月11日	2019年11月12日 ～2019年12月10日	2019年12月11日 ～2020年1月10日
当期分配金 (円)	45	45	45	45	45	45
(対基準価額比率) (%)	0.540	0.532	0.530	0.524	0.526	0.522
当期の収益 (円)	41	41	39	45	37	43
当期の収益以外 (円)	3	3	5	—	7	1
翌期繰越分配対象額 (円)	999	997	992	995	989	989

（年2回決算型）

項目	第10期
	2019年7月11日 ～2020年1月10日
当期分配金 (円)	—
(対基準価額比率) (%)	—
当期の収益 (円)	—
当期の収益以外 (円)	—
翌期繰越分配対象額 (円)	3,056

(注1) 「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型) / (年2回決算型)

引き続きイーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券を高位に組入れることにより、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。

イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド

2019年12月の消費者物価指数(CPI)上昇率は前年同月比+7.35%と、RBIのインフレターゲットである $4 \pm 2\%$ の上限を超えました。野菜価格の高騰が背景にありますが、野菜を中心とした食料品のインフレ率は、ラビ作物(乾期に育つ作物)の収穫や政府による供給側への措置により、2020年1-3月には緩和すると見られ、追加の金融緩和の余地があるとみています。利回り収入の観点から、短期および中期の社債が魅力的との見方ですが、RBIの金融政策の恩恵が見込まれると判断した局面では戦術的に長期債の組入れを増やすことも検討します。引き続き、安全性や流動性を重視しつつ、機動的なデュレーション管理と個別発行体に対するクレジット調査に基づく銘柄選択により、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行って参ります。

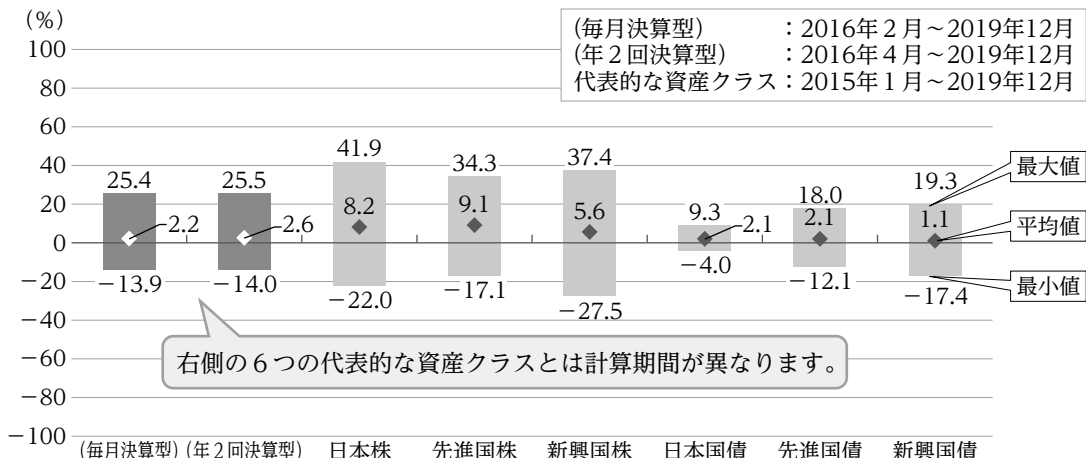
お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	(毎月決算型) 2015年2月10日から2025年1月10日まで (年2回決算型)2015年4月10日から2025年1月10日まで	
運用方針	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてインドの公益およびインフラ関連の債券(以下「公益インフラ債券」)に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	インドの公益インフラ債券を主要投資対象とします。
運用方法	イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)	以下の投資制限のもと運用を行います。 ・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 ・株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	以下の投資制限のもと運用を行います。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 ・株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	(毎月決算型) 原則として毎月10日(休業日の場合は翌営業日) (年2回決算型)原則として、毎年1月10日および7月10日(休業日の場合は翌営業日) 各ファンドの毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。	

(参考情報) 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスについて、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数 (TOPIX) の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。
先進国債	JPMorganGBIグローバル (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。
新興国債	JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

(毎月決算型)

当ファンドの組入資産の内容

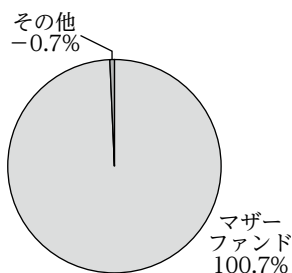
組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

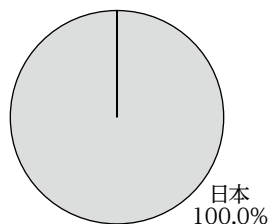
ファンド名	第58期末 2020年1月10日
イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	100.7%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

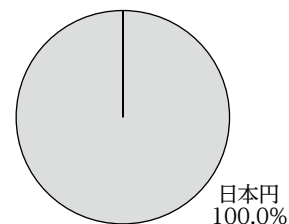
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)資産別配分において未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第53期末 2019年8月13日	第54期末 2019年9月10日	第55期末 2019年10月10日	第56期末 2019年11月11日	第57期末 2019年12月10日	第58期末 2020年1月10日
純資産総額 (円)	55,239,852,790	55,832,331,191	55,504,777,289	55,398,271,776	54,701,695,150	54,897,051,156
受益権総口数 (口)	66,629,832,785	66,315,845,166	65,748,078,821	64,907,190,199	64,270,846,717	63,968,463,541
1万口当たり基準価額(円)	8,291	8,419	8,442	8,535	8,511	8,582

* 当作成期中 (第53期～第58期) において追加設定元本額は6,428,730,640円、一部解約元本額は8,892,151,169円です。

ファンドデータ

(年2回決算型)

当ファンドの組入資産の内容

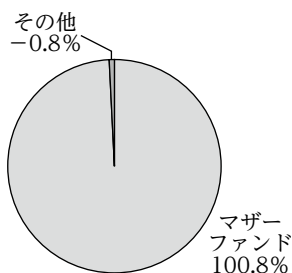
組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

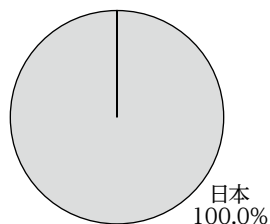
ファンド名	第10期末 2020年1月10日
イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	100.8%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

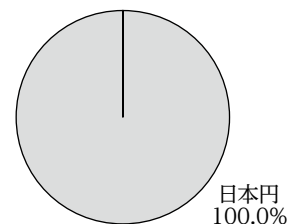
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)資産別配分において未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

純資産等

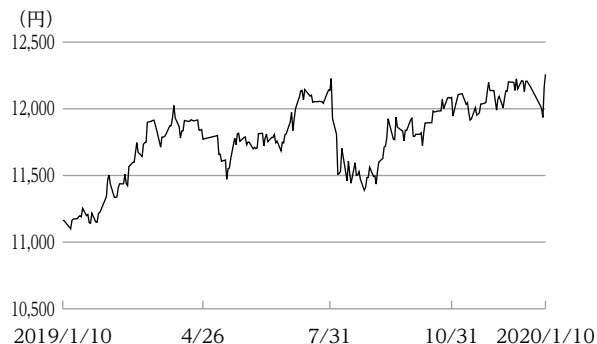
項目		第10期末 2020年1月10日
純資産総額	(円)	19,766,757,085
受益権総口数	(口)	17,852,328,387
1万口当たり基準価額	(円)	11,072

*当期中において追加設定元本額は1,699,903,149円、一部解約元本額は2,233,204,948円です。

組入上位ファンドの概要

<イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド>

基準価額の推移(2019年1月11日～2020年1月10日)

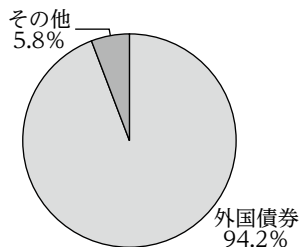


組入上位10銘柄(組入銘柄数：61銘柄)

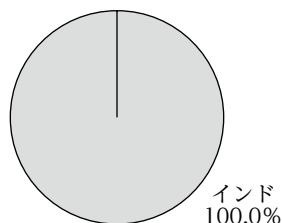
(2020年1月10日現在)

銘柄名	種別	利率	償還日	国・地域	比率
INDIA GOVT BOND	国債	7.5700%	2033/6/17	インド	15.7%
AXIS BANK LTD	社債	7.6000%	2023/10/20	インド	6.5%
VODAFONE MOBILE SERVICES	社債	8.2500%	2020/7/10	インド	6.2%
PIPELINE INFRASTRUCTURE LTD	社債	8.9508%	2024/3/22	インド	4.4%
INDIA GOVT BOND	国債	7.6800%	2023/12/15	インド	4.3%
RELIANCE INDUSTRIES LTD	社債	8.6500%	2028/12/11	インド	4.3%
NHPC LTD	社債	8.1200%	2029/3/22	インド	4.2%
POWER FINANCE CORP	社債	7.1000%	2022/8/8	インド	4.1%
SIKKA PORTS & TERMINALS	社債	8.4500%	2023/6/12	インド	3.8%
REC LIMITED	社債	8.3000%	2029/3/23	インド	2.7%

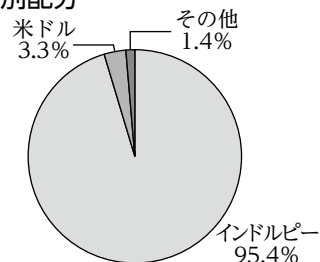
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注)組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

1 万口当たりの費用明細

(2019年1月11日～2020年1月10日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) その他費用	3円	0.027%	(a) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数 期中の平均基準価額は、11,808円です。
(保管費用)	(3)	(0.026)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他1)	(0)	(0.000)	信託管理事務に係る手数料
(その他)	(0)	(0.001)	インドの税務代理人に対する手数料
合計	3	0.027	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。